

国際会議成果報告書

(公財)スガウエザリング技術振興財団 国際会議助成事業

令和4年度国際会議助成（第41回）

1. 国際会議名 2023東アジア文化遺産保存シンポジウムin札幌
2. 申請者所属・氏名 東アジア文化遺産保存学会・今津 節生
3. 開催期間 令和5年8月10日から令和5年8月13日まで
4. 国際会議成果の概要

(和文) 東アジア文化遺産保存学会は、2023年8月10日～13日に北海道大学学術交流会館を会場に「2023東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 札幌」を開催した。本国際シンポジウムは日本・中国・韓国の三国を中心に、東アジアの文化財保存修復に携わる研究者や技術者が一堂に会して、新たな文化財保存修復技術を世界に発信することを目的としている。

東アジアは急速な経済発展に伴い世界で最も変貌している地域の一つである。特に日本・韓国・中国の三国は、過去70年間の経済発展によって欧米と肩を並べる近代化を達成した。しかしその反面、文化面では伝統文化が失われ、急激な開発や環境変化によって文化遺産が危機にさらされている。文化財の保存修復技術は欧米を中心に発展してきたが、ヨーロッパと東アジアは、歴史・文化的背景、気象、文化財の材質やその製作技法など異なる点が多い。そこで、東アジア独自の環境・文化の基盤の上に、文化財を守り・伝え・活用するためにも、各国の文化財保存修復に携わる研究者が共同して問題解決にあたるのが、本国際シンポジウムの開催目的である。

「2023東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 札幌」は、8月10日～13日に札幌市の北海道大学学術交流会館を会場に実施した。8月10日は、ワーキンググループ会議及び、各国代表者会議を開催した。8月11日・12日は、口頭発表（51件）およびポスター発表（134件）、8月13日は公開講演会および外国人向けのエクスカージョンを実施した。公開講演会では、各国の文化遺産保存の実例を分かり易く日本語で発表することによって、北海道民に対しても、文化遺産の保存と活用の推進と観光について実例を紹介した。また、エクスカージョンでは、2020年に開設したウポポイやアイヌ民族国立博物館と2021年に世界遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群を組み合わせることによって、北海道の新しい魅力を東アジア各国の知識人にアピールすることができた。

(英文) The East Asian Association for Conservation of Cultural Heritage held the "2023 International Symposium on the Conservation of East Asian Cultural Heritage in Sapporo" from August 10 to 13, 2023, at the Hokkaido University Academic Exchange Hall. The purpose of this international symposium was to bring together researchers and technicians engaged in the conservation and restoration of cultural heritage in East Asia, with a focus on Japan, China, and Korea, and to disseminate new cultural heritage conservation and restoration techniques to the world.